

January 25, 2026

イエスのバプテスマ

マタイ 3:16-17

3:16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。

3:17 そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

マタイ 3:1-12 には、バプテスマのヨハネがヨルダン川で人々にバプテスマを授けていたことが書かれていました。続く 13 節からは、イエスがそこにやってきて、ヨハネからバプテスマをお受けになったことが書かれています。イエスがバプテスマをお受けになった——この出来事はイエスについてどんなことを教え、私たちにとってどんな意味があるのでしょうか。

一、イエスのあわれみ

ヨハネの説教によって罪を示された人々は、ヨハネからバプテスマを受けるため川岸に行列を作っていました。その行列に並んでいる人々の中には、ローマの手先になってユダヤ人から税金を取り立てていた取税人や、権力と腕力をふりまわして人々を苦しめていた乱暴な兵士たちもいました。彼らは、世の中では嫌われ、怖がられていましたが、ここではそうではありませんでした。そうした人を非難する人はいませんでした。善良な人々も、もし、立場が違えば、自分も同じようにしただろうと考えました。たとえ、言葉や行いには表れなくても、思いや態度の中にある自分の罪を深く自覚していたのです。様々な人がそこにいましたが、神の前にへりくだって罪を悔い改めた

人たちの不思議な一致や調和がそこにはあったと思います。誰からも責められない、咎められない、見下されない。みんな罪人。そんな「安心感」といったものさえあったことでしょう。

日本では、初詣など、大勢の人が神社仏閣に参拝している姿を写して放送するとき、「大勢の善男善女が集まっています」などと言います。たとえ年に一度つきりでも晴れ着を着てお参りに来る人たちは信心深い、心根の清い人たちだということです。けれども、教会の礼拝は違います。古代では、礼拝のとき最初に歌う賛美は「キリエ・エレイソン」（主よ、あわれみたまえ）でした。人々は胸を打ち叩いて、「主よ、私は思いと、言葉と、行いにおいて罪を犯しました」と告白するのです。教会の集まりは、善男善女の集まりではなく、罪人の集まりです。正しい人々の集まりほど、窮屈なところはありません。そこではいつも立派そうに振るわまなければなりません。どちらがより正しいかといって争いになります。しかし、罪人の集まりでは、どちらがより罪深いかと言い合うのですから、喧嘩になりません。罪そのものは神の栄光も、互いをも、また、自分自身をも傷つけるもので、決して受け入れられないのですが、罪を悔い改める人々は互いを受け入れ合うのです。そうしたものがヨハネからバプテスマを受けようとしていた人々の間に見られ、それは今日のクリスチャンの集まりにも見られるものだと思います。

さて、その行列の中に、なんと、イエスが並ばれました。イエスは罪のない、聖いお方です。「悔い改め」なければならぬものなど一つもないイエスが、「悔い改め」を必要とする人々と一緒に並び、その人たちと同じようにバプテスマをお受けになったのです。それは、いったいどうしたことでしょう

か。それは、イエスが私たち罪ある者たちを深くあわれみ、罪人の中に入ってこられ、悔い改めてご自分を信じる者を救うためだったのです。「神の御子」であるお方は、私たちの救いのために「人」となられました。清らかな天ではなく、罪や悪、不正や圧迫、憎しみや裏切りなどがドロドロしているこの世で過ごされたのです。そして、人となられただけでなく、ご自身を「罪人」の立場に置かれました。このときからおよそ3年して、イエスはユダヤの最高法院で「有罪」判決を受け、さらに、ローマ総督からも「十字架刑」を宣告されました。判決のあと、一時間、一分の猶予もなく、たちまち十字架にかけられ、「罪人」として十字架で死んでゆかれました。聖書に、「神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです」（コリント第二 5:21）とある通りです。イエスがヨハネからバプテスマを受けようと、行列に並ばれたのは、十字架への大きな一歩だったのです。

二、イエスの服従

また、このことには、イエスの神への服従を見ることができます。

イエスが自分のところに来られたとき、ヨハネはこう言いました。「私こそ、あなたからバプテスマを受ける必要があるのに、あなたが私のところにおいでになったのですか。」（14節）ヨハネの驚きがよく分かります。けれどもイエスは言われました。「今はそうさせてほしい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです。」（15節）このように、イエスとヨハネの間に押し問答が

あったのですが、ヨハネは、イエスが「正しいこと」だと言われたことに従いました。ここでの「正しいこと」というのは、神がイエスにお与えになった地上での使命のことです。それはイエスには、はっきりと分かっていたことでしたが、ヨハネにはまだ示されていませんでした。けれども、ヨハネはイエスの言葉に従い、イエスにバプテスマを授けました。

イエスが水から上がられると、イエスの上に聖霊が降り、父なる神の声がありました。そのときのことを聖書はこう言っています。「すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。『これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。』」聖書は、二度も、「見よ」、「見よ」と言って、読者の注意を引いています。このことは、それほどに大切なことで、私たちがよく聖書を調べ、理解しなければならないことなのです。

まず、聖霊が降られたことですが、これは、イエスが聖霊の力を与えられたことを意味します。しかし、同時に、イエスが聖霊の導きにご自分を委ねられたことをも教えています。イエスはこのあとすぐに荒野に入っていかれませんが、マタイやルカは、「御霊に導かれて」、イエスがそうされたと書いています。マルコは、もっと強い言葉で、「それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた」（マルコ 1:12）と言っています。マルコが使った「追いやる」という言葉は、家畜に言うことを聞かせるときに使う言葉です。イエスは、聖霊の主導権に完全に服従されたことが分かります。

また、天からの声は、「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」でした。「これはわたしの愛する子」との言葉の

もとをたどると、詩篇 2:7-9 に行き着きます。こうあります。
「私は主の定めについて語ろう。／主は私に言われた。／『あなたはわたしの子。／わたしが今日 あなたを生んだ。わたしに求めよ。／わたしは国々をあなたへのゆずりとして与える。／地の果ての果てまで あなたの所有として。あなたは 鉄の杖で彼らを牧し／陶器師が器を砕くように粉々にする。』」父なる神はイエスが「王なる救い主」とであると宣言されたのです。しかし、もう一つの言葉、「わたしはこれを喜ぶ」は、イザヤ 42:1 からとられていて、そこでは、「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う」とあります。イエスが「王なる救い主」でありながら、同時に、神のしもべとなり、人々のしもべにさえなられ、人々を救うと言われているのです。イエスは、「王なる救い主」ですが、地上におられた間、「しもべなる救い主」となって、徹底して父のみこころに従い、聖霊の導きに服従され、私たちのために救いを成し遂げられました。

イエスは、今、天の王座におられますが、なお、私たちに仕え続けてくださっています。ヘブル 7:25 には、「したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります」とあり、同じく、12:2 には「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい」とあります。イエスは、私たちの足りない祈りをとりなし、不十分な信仰をも受け入れ、より成長したものへと導いてくださるのです。聖書は、「見よ」、「見よ」と言っています。私たちは、罪人の友となり、信仰の導き手となってくださるイエス

を、信仰の目でしっかりと見つめたいと思います。そのようにイエスを見上げる人は幸いです。

三、私たちのバプテスマ

イエスがバプテスマをお受けになったのは、イエスのあわれみのゆえであり、父なる神への服従のゆえであることを学びましたが、最後に、それは、ヨハネのバプテスマに新しい意味を加え、「父、子、聖霊の名において」授けられるバプテスマへと変えるためのものであったことを知っておきましょう。

ヨハネのバプテスマは「悔い改めのバプテスマ」で、救い主を迎える準備をさせるものでした。しかし、それは「罪の悔い改め」を形に表すことができても、「罪の赦し」を与えるものではありませんでした。しかし、イエスは、ご自分の十字架によって、それを「罪の赦しのバプテスマ」とされました。ペテロはペンテコステの日に「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい」（使徒 2:38）と言い、アナニヤは、「そこで今、なんのためらうことがあろうか。すぐ立って、み名をとなえてバプテスマを受け、あなたの罪を洗い落しなさい」（使徒 22:16）と言っています。

また、それは、私たちが新しく生まれ変わらせる新生（ボーン・アゲイン）のバプテスマです。イエスは、ニコデモに「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません」（ヨハネ 3:5）と言われましたが、「水と御霊」は、バプテスマに関連のある言葉です。イエスはご自身が死からよみがえられたことによって、バプテスマを通して、罪ある古い人を死なせ、キリ

ストにある新しい人としてよみがえらせてくださるのです。

そして、バプテスマによって誕生した人は、「神の子ども」です。父なる神は、イエスのバプテスマのとき、イエスに「これはわたしの愛する子」と言われましたが、バプテスマを授けられた者にも、「これはわたしの愛する子ども」と宣言してくださるのです。

イエスのバプテスマの箇所を読むたびに、また、自分のバプテスマの日を記念するとき、イエスによって与えられたバプテスマの意味を思い返しましょう。それによって、イエスをもっと身近に感じることができます。罪が赦され、新しい命を与えられ、神の子どもとされていることの感謝、平安、喜びを持つことができます。それは、私たちに与えられている新しい歩みを歩む力となるのです。

(祈り)

父なる神さま、きょう、私たちは、イエスが受けたバプテスマについて学びました。この学びが、イエスとイエスの救いをさらに深く知るものとなるよう、導いてください。また、私たちが受けたバプテスマの意味を理解して、授けられたバプテスマに答えて生きる者となれますよう、助けてください。私たちの救い主イエス・キリストのお名前です。